

1, 進路の選択に当たって

複雑で多様な社会の中で、15歳という年齢で、自分の進路を選択することは、本人にとっても、親にとっても、なまやさしいことではありません。

しかし、義務教育の最終学年を迎えた今、自分の夢を語り、将来を設計していくことは、これまでの自分自身を見つめ直しながらこれからの自分の人生の生き方を考える第一歩でもあるのです。進路の選択を単に高校選びと考えずに、大切な自分の将来を作るという意識を持って、慎重に、真剣に考えていきましょう。

【進路を選択するにあたって考えること】

- 1、自分が、やりたいこと、好きなことは何かを考える。(興味・関心)
- 2、自分は、どんなことが得意なのかを考える。(能力・適性)
- 3、自分は、将来、どうなることを望んでいるか考える。(期待・展望)
- 4、自分は、現在の生活、学習にどう取り組んでいるか考える。(意欲)
- 5、自分の地域、家庭環境はどうかを考える。(環境)

以上のことを土台にして、将来へのしっかりとした見通しを持って、主体的に(自分を中心に考えて)進路を決定していきましょう。

【進路選択に向けた今後の流れ】

- 第1段階 「自分に対する理解」
 - ・ 自分の興味・関心のあることをつかむ。
 - ・ 自分の個性や特技、性格などをつかむ。
- 第2段階 「情報の収集・整理・活用」
 - ・ 希望する進路先の資料やデータを入手する。
 - ・ 進路先を実際に見て、雰囲気や環境、通学(通勤)の便を理解する。
- 第3段階 「進路に関する相談・検討」
 - ・ 家族と相談して理解を得る。
 - ・ 担任の先生などと十分に相談する。
 - ・ ほかの学校(職場)と比較・検討する。
- 第4段階 「進路の決定と具体的な進路計画」
 - ・ 自分の意思で進路を選択する。
 - ・ 具体的な進路計画を立てる。
- 第5段階 「希望を実現するための準備」
 - ・ 目標の達成のためにどんな努力が必要か理解する。
 - ・ 目標達成へのかたい意思を持つ。

2. 就職についての心構え

人によって、その時期が早いか遅いかの違いはありますが、ほとんどの人がやがて就職します。現在は、中学校卒業後進学をする人が大多数をしめていますが、『みんなが行くから』など主体性のない進学では、途中で目標を見失ってしまい自分の持つ可能性をふさいでしまうことにもなりかねません。心身ともに健康で、自分の適正にあった職業に就き、自分の力を社会で役立てていくことは、素晴らしいことです。自分の目標がはっきり定まっているのであれば、早くから技術を身につけ、一人前の社会人としての生活経験を積み重ねていくことは、その人の人生にとって、きっとプラスになることでしょう。

就職の第一歩は職業を選ぶことです。職業の種類や内容・特徴について調べ、自分の性格や適正を考えて、自分が興味を持ち、続けてやっていける職業を選ぶことが大切です。就職することは、経済的に自立することだけでなく、社会人としての責任を分担することにもなります。「進学する学校がないから仕方がない」という消極的な考えではなく、自分の将来をしっかりと見据え、目的をしっかりと持ち、自覚と誇りを持って選択してほしいと思います。

【就職を考えるにあたって】

就職するためには、『ハローワーク』等の紹介で、各事業所から求人要項が出ています。今後、詳しい要項や資料が学校に送られてきますので、担任の先生や就職担当の先生と、職種や労働条件、環境、厚生施設の充実の有無など、いろいろな面から検討して下さい。また、就職しても、たえず向上心・向学心を持って、将来に有利な展望を持つとうとする人には、いろいろな方法があります。

- ① 働きながら定時制高校に通って勉強する。(ほとんどの企業が定時制高校への通学を奨励し、便宜を図っている。最近では通信制高校に通うケースもみられる。)
- ② 企業内訓練校に入って、収入を得ながら実務に必要な知識と一般教養を身につける。(3年ないし2年間、一般社員と同じように給料を支給されて、その間は仕事につかず、高校と同程度の教育が受けられる。卒業後は中堅技術者としての道が開ける。)
- ③ 都立職業能力開発センター(高等職業技術専門校・職業訓練校)で、1年間ないし2年間、自分の適性にあった技術を身につけてから就職する。普通課程の中に中学生用の推薦枠がある。

3, 進学についての心構え

志望校の選択には、何を第一に考えるべきでしょうか。一般的には、「少しでも良い学校に入りたい。」という話を聞くことも多いようです。では、「良い学校」とはどんな学校なのでしょう。それは評判の良い学校ではなく、入学する自分を「伸ばしてくれる学校」でなくてはならないはずです。

それでは、自分の性格に合い、自分の能力を生かせる、失敗のない志望校決定をするにはどうしたら良いでしょうか。いくつか留意点を挙げてみましょう。

1 何の目的で、進学するのかももう一度考える。

自分がなぜ上級学校に進学するのははっきりしていないと、在学中に誘惑に負けたり、横道にそれたり、貴重な時間を無駄づかいしかねません。「みんなが行くから」でなく、はっきりとした目的意識を持って、上級学校を選びましょう。また、進学する上級学校は、高等学校だけではなく、高等専門学校や各種・専修学校などさまざまな種類があります。今後、さまざまな資料や、説明会等を通して考えていきましょう。

2 学校について調べる。

直接上級学校に行き、自分の目と耳で確かめることが大切です。保護者・生徒のための学校説明会や体験入学、体育祭・文化祭なども利用して、その学校の先生のお話を直接伺う機会を持つようにしましょう。その際、次のような点に留意しながら確認していくことをおすすめします。

- ① 教育方針や環境、施設・設備を調べる。
- ② その学校の特色や力を入れているものを調べる。
- ③ 学習内容や進路状況を調べる。
- ④ 通学時間や経路を調べる。
- ⑤ 部活動などの状況を調べる。
- ⑥ 費用がどれくらいかかるか調べる。(学費・交通費・雑費など)

3 家庭で納得が行くまで話し合う。

本人の学習状況や学力、適性、意欲などをふまえ、家庭の方針や環境についても十分に話し合い、家族の一員としての立場を理解し、志望校を決めなくてはなりません。十分な話し合いを日頃から積み重ねていくことが大切です。

4 志望校は本人が決める。

高校生活は自主性が要求されます。いろいろな人の意見を参考にしながら、最後は自分の意志で志望校を決定するようにしましょう。

5 受験校を絞り志望順位をはっきりさせておく。

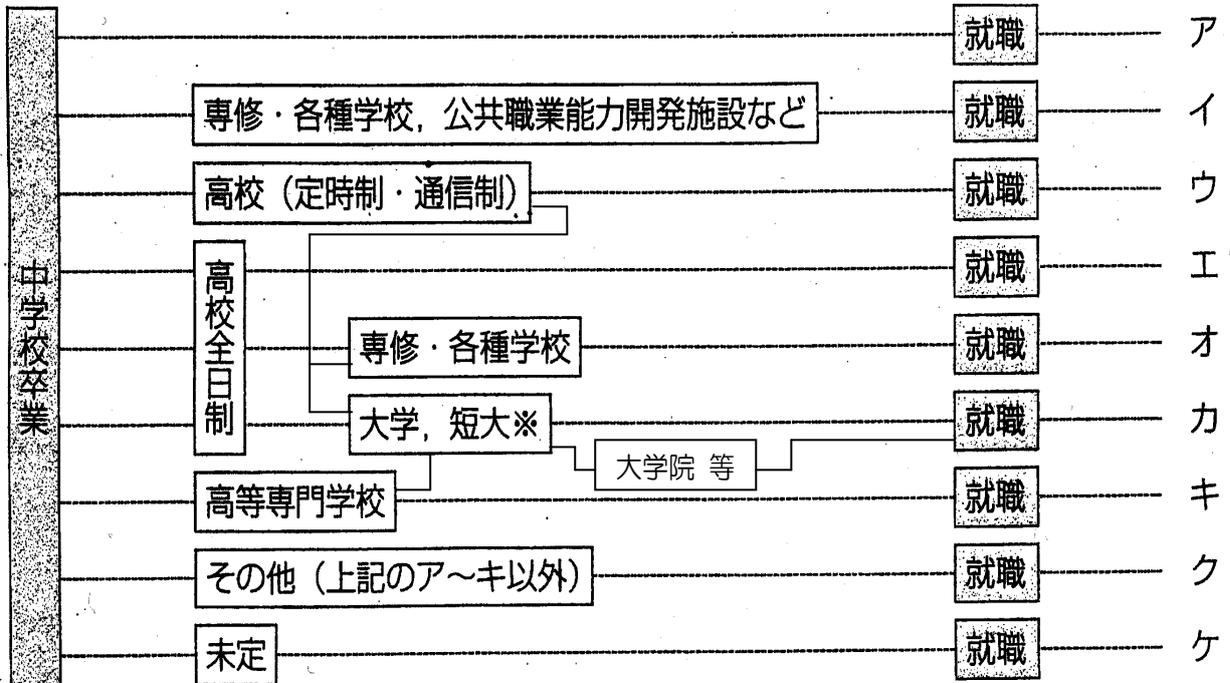
あまり数多くの学校を受験することは、精神的にも身体的にも負担になることが多くなります。目標を明確にし、志望順位をはっきりさせておくことが大切です。

6 学級担任とよく相談する。

三者面談のときだけでなく、進路希望調査を記入するとき、わからないことや不安・悩みがあるとき、志望校を変更したいときなど、日頃から担任の先生に相談して下さい。様々な情報が氾濫していますが、学校や学年と生徒一人一人保護者の方と信頼関係を保ちながら進路を決定していきたいと考えています。

4、上級学校の種類

「中学校卒業後の進路図」



(※大学, 短大への道はいろんなコースから開かれている)

5、志望校決定のポイント

1、高校のタイプ

- ★公立(都立)か、私立か、国立か。
- ★男女共学か、別学か。
- ★普通科か、その他の学科か。

高校を大まかに分けると、公立(都立)・私立・国立の3つに分けられます。これらの高校はそれぞれ教育方針を持ち、特に建学の精神にのっとり教育が行われる私立高校には、教育内容に大きな違いがあります。学費のことについても考慮に入れ、第一志望をどうするかについて考えて見ましょう。

男女共学か別学か、という点も、自分が高校生活を送る上で考慮すべき要素でしょう。共学にも別学にもそれぞれの良さがあります。自分の性格や個性を考え、どちらがよりよい高校生活となるか、考えてみましょう。

また、高校には特色あるさまざまな学科やコースが用意されています。設置課程にも種類があり、全日制・定時制・通信制、学年制・単位制と、自分の学びたいスタイルによって、高校のタイプを選ぶことができます。

2、教育方針(校風)

★ 自分にあつた教育方針か。

特に私立高校では、学校によって教育方針が大きく異なります。大学進学に力をいれ学習指導に定評がある学校、しつけ教育に厳しい学校、制服がなく自由な方針の学校、宗教教育を行う学校など、高校によってずいぶん違います。

公立(都立)高校でも、学習指導の方法や行事への取り組みなど、学校ごとに特色を打ち出しています。先輩に話を聞いたり、学校訪問に行ったりして、インターネットのホームページを参考にするなど、詳しく調べておきましょう。

3、教育内容

- ★ 進学校か、大学附属校か、職業系か。
- ★ クラブ活動や学校行事などはどのようなものがあるか。

普通科を志望した場合、卒業後はさらに大学などの上級学校へ進学するケースが多く見られますが、私立高校などでは入試成績によって特進コースと普通コースに分け、異なるカリキュラムで学習指導を進める学校もあります。卒業後の進路まで考えて、高校を選ぶ必要があるでしょう。また、大学附属の私立高校では、系列大学への優先入試の制度が学校によって異なります。なお、国立大学の附属高校には優先入学の制度は原則としてありませんが、一部の付属高校からは推薦入学制度があります。

高校の教育内容については、学習面だけでなく、課外活動についても調べておく必要があります。特にクラブ活動は、高校生活の重要な部分を占めるという人が少なくないでしょう。学校行事などについても、いろいろと調べておいたほうがよいでしょう。

4、学力

★ 自分の学力に合った学校か。

自分の学力に合っていない学校では、3年間高校生活を続けていくことは困難になる場合が多いものです。入学できればどこでもよいという考えでは、自分にあつた高校を選ぶことはできません。自分の学力がどの程度なのか把握し、合格の基準などを参考にし、学力に合った学校を選びましょう。

5、通学時間

★ 通学時間は適当か。

どんなに気に入っていても素晴らしい学校でも、片道2時間以上もかかるようでは負担が大きくなります。通学時間も考慮に入れて、志望校を選びましょう。学校によっては寮や寄宿施設を設けています。

6, さまざまな高等学校等

中学校卒業後には、さまざまな進路の道が考えられますが、現在高等学校への進学を希望している人が多いでしょう。ここでは、それぞれの高等学校について、少し詳しく説明します。

高等学校等の特色

国立高校

国立大学の教育学部の附属高校として設置されているものがほとんどである。「教育実験校」としての性格が強く、私立高校同様に特徴的な教育方針を持つ高校が多い。系列の国立大学への優先入学制度はほとんどない。男子校・女子校・共学校がある。

都立(公立)高校

東京都によって設置・運営されている高校。最近では総合学科や単位制・昼夜間定時制など新しいタイプの高校も増えている。以前は学区が定められていたが、現在は都内すべての高校を受検可能になった。

私立高校

各校とも独自の教育方針を持っているのが最大の特徴である。例えば語学力や国際感覚の育成のため留学制度を持つ学校、「しつけ」を重視する学校や逆に生徒の自主性を尊重し自由な校風をうたう学校など実に個性的である。また一般に進学に重点を置く高校が多く、特別なカリキュラムを実施したり、優先入学制度を持つ大学・短大の附属高校もある。

高等専門学校(高専)

修業年限5年間の課程で、主に工業・技術系の専門教育により、実践的技術者の養成を目指す教育機関。卒業後は就職希望者が多く、その専門性を生かして高校・大学よりも高い就職率を誇る。最近では専攻科または大学への編入など進学する者も多い。都内には国立・都立・私立が各1校ずつある。

さまざまな形態

1、課程について

全日制 朝から午後まで日中に授業がある。

定時制 夜間やその他定められた時間帯に授業がある。

通信制 自宅等で学習し、レポートなどの添削指導を受けながら、定められた日(月2日程度)に登校し、面接指導を受ける。

2、学年制と単位制

学年制

学習する教科・科目が学年ごとに定められている。全日制は3年、定時制は4年(一部3年)。

単位制

学年の区別がなく、3年間(または4年間)の中で必修科目のほかに自分に適した科目を選択する。幅広い選択科目が設置されている。自分の興味・特性・進路等に応じた多様な学習ができる

3、さまざまな学科

普通科

国語・地理歴史・公民・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭・情報の各教科を中心に学習する。選択科目もある。進学や就職など、幅広い進路に適応する。

普通科(コース制)

普通科の一部だが、生徒の興味関心に応じられるよう、さまざまな選択科目を設けている。1年生のときから語学系・文化系・美術系・情報系などのコースに分かれて学習する。

農業に関する学科

農業の各分野で活躍する技術者の育成を目指す。バイオテクノロジーなど専門的な知識や技術を身につける。園芸・食品などの学科を併設する高校がある。

工業に関する学科

工業の各分野で活躍できる技術者の育成を目指す。工芸・デザインなどの学科を併設する高校がある。

科学技術科

科学や技術について幅広く学び、卒業後、理系の大学等において専門性を高めるための基礎力を身につける。

商業に関する学科

経理・情報処理(コンピュータ)などの商業の分野や、国際化に対応する分野で活躍できる人材の育成を目指す。

ビジネスコミュニケーション科

自立できる人材の育成を目指し、英語や実践的なビジネス科目を学習する。大学進学を目指す。

情報に関する学科

高度情報通信社会に対応する創造的・実践的な態度を育て、情報の各分野に関する知識と技術を習得する。

産業科

生産・流通・消費の各過程の関連性を学び、起業家精神を育成する。従来の学科の枠を超えた新たな学科。

家庭に関する学科

家庭生活に関する専門科目の学習を行い、衣食住・保育・家庭看護・介護などの知識や技術を身につける。

福祉に関する学科

各種施設による実習や体験学習を通して、福祉系・看護系の就職及び進学を目指す。

芸術に関する学科

音楽や美術に関する専門科目の学習を行い、将来にわたって芸術の発展に寄与する人材の育成を目指す。

体育に関する学科

体育・スポーツに関する知識・技能を身につける。普通教科のほかに競技ごとの専攻に分かれた専門の学習を行う。

国際関係に関する学科

国際理解に関する専門科目を学習し、豊かな国際感覚を身につけ、国際社会で行動する人材の育成を目指す。

総合学科

普通科目から専門科目まで幅広い選択科目の中から、自分の特性や希望に合った科目を選択し、系統的・専門的に学習する。専門性や系統性によりまとめられた「系列」ごとに設置された選択科目の中から、自分だけの時間割を作って学んでいく。

併合科

2つの学科を1つの学級に編成している学校。

4、新しいタイプの都立高校

デュアルシステム

デュアルシステムとは、企業で数ヶ月間の職業訓練を行い、卒業後にも役立つ技術・技能を身につけるシステム。単位制・昼夜間定時制で、デュアルシステム科の高校と、既存の学科でデュアルシステムを実施する高校がある。

チャレンジスクール

小・中学校での不登校や、高校での中途退学を経験した生徒など、これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジする学校。

午前・午後・夜間の三部制の定時制単位制総合学科高校で、自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて各時間の部を選ぶ。入学選考は学力検査や調査書によらず、生徒の学習意欲を重視する。

エンカレッジスクール

小中学校で十分能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、頑張りを励まし、応援する学校。エンカレッジとは「励ます」「カブける」を意味する。2人担任制を導入。30分授業・少人数制を実施し、基礎基本を徹底する。体験学習や選択授業も多い。入学選考は学力検査がない。

昼夜間定時制高校

午前・午後・夜間の時間帯の3部の中から、自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて入学できる。修業年限は4年を基本だが、3年で卒業も可能。4部制の学校もある。

中高一貫教育校

中高一貫教育校には3種類ある。計画的・効率的な6年間のプログラムで教養教育を行う。

「**中等教育学校**」…1つの学校として6年間を通じて中高一貫教育を行う。前期課程(3年)と後期課程(3年)に分かれる。高校(後期課程)からの入学はできない。

「**併設型の中学校・高校**」中学からの入学者は全員が併設の高校に進学できる。高校からの募集もある。

「**連携型の中学校・高校**」既設の中学と高校が教育課程上の連携や交流をする。

進学指導重点校

難関大学への進学実績の向上を目指す学校。過去に進学実績がある学校が指定されている。

進学指導特別推進校

難関大学を中心とした進学実績の向上を目指す学校。進学指導重点校レベルの進学実績を目指す。

進学型専門高校

ビジネスコミュニケーション科の高校で、国際社会で活躍できるスペシャリストを育成するために大学等への進学を目指す。英語とビジネス科目に重点を置いている。

重点支援校

それぞれの学校がもつ良いところをさらに伸ばすように、学校が一体となって努力している学校が指定されている。

SSH スーパーサイエンスハイスクール

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)とは、文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度で、全国の国立・公立・私立高校が指定されている。指定年限により終了している学校も多い。

5、学力検査問題の作成

国立・私立は自校で問題を作成しています。過去問題集を手に入れ、問題の傾向をつかみ、対策をたてる必要があります。都立は、基本的に5教科実施で統一問題です。しかし、「生徒の学習の到達度をきめ細かく評価するとともに、特色ある学校としての校風や伝統を広く示していく」ため、5教科内、国数英の3教科についての入試問題を自校で作成している都立高校(15校)があります。なお、平成26年度より15校が別々に作成していた自校作成問題を3つのグループに分けて作成していましたが、**今年度より自校作成に戻ります。**

- ・**進学指導重点校** 日比谷, 戸山, 青山, 西, 八王子東, 立川, 国立(7校)
- ・**進学重視型単位制高校** 新宿, 隅田川, 国分寺(3校)
- ・**併設型中高一貫校** 白鷗, 両国, 富士, 大泉, 武蔵(5校)

国際高校では、英語のみ自校問題による入試を行っています。また、一部の定時制高校でも独自に作成した問題で入試を行っています。自校問題作成校は問題説明会を実施しています。積極的に参加しましょう。

7. 入試制度について

国立高校

- ・ 国立高校では、各高校の選考委員会が選抜に関する一切の権限を持っているので、共通の入試要項はない。よって、各高校で発表する入学案内によって詳細を知るほかはない。
- ・ 選抜方法と合格の基準に関しては、調査書と学力検査をどのように扱うのか、公表もされていない。しかし大半の学校では、学力検査を重んじているのではないと思われる。
- ・ 学力検査はおもに5教科。推薦入試や面接・実技がある学校も一部ある。

都立高校・・・詳細は 11 月上旬ころ発表予定。

推薦に基づく選抜

【平成30年度入試日程の案】

出願	面接・実技等	発表
平成30年1月23日(火)	平成30年1月26日(金) 27日(土)	平成30年2月1日(木)

応募資格	3月に都内の中学校を卒業する見込みの者で (1)一般推薦(中学校校長の推薦を受けたもの) (2)文化・スポーツ等特別推薦(中学校校長から志願が認められたもの)・・・実施しない学校も有り ※ (1)(2)の両方に出願することができます。	
推薦基準	① その高校(またはコース・学科)を志望する目的意識が明確で、その理由が適切であること。 ② その高校(またはコース・学科)に対する適性及び興味・関心があること。 ③ 人物が優れていること。 ④ 学習成績が良好であること。	
出願	基本的に1校1コースまたは1科に限り出願することができる。志願変更はできない。 * 同一学科・コース内であれば、基本的に第2志望を指定できる。	
対象人員枠	定員の 10~30% (定時制・通信制では原則として実施しない) * おおまかな割合は下のとおりだが、各学校によって割合が異なるので、募集要項を確認すること。	
	20%以内	普通科・商業科・高等専門学校
	30%以内	コース制・エンカレッジスクール・単位制・総合学科・デュアルシステム科・水産科・国際学科・科学技術科・ビジネスコミュニケーション学科・特色科をすすめる工業高校 その他の専門学科
検査内容	【一般推薦】 ①面接 ③集団討論(小論文・作文・実技) ②調査書 ④(自己PRカード)	【特別推薦】 当該高校の校長が定める。
選考	上記、検査内容の総合得点による。配点は、各学校によって異なる。 * 調査書点の出し方 各教科の観点 ABC を点数化し、調査書点として換算して算出する学校と、評定(5/4/3/2/1)を使用する学校とがある。評定を使用する学校が多い。	

学力検査に基づく選抜

【平成30年度入試日程の案(第一次募集・分割前期募集)】

出願	学力検査	発表
平成30年2月6日(水) 7日(木)	平成30年2月23日(金) 1日早まります。	平成30年3月1日(木)

出願	(1) 基本的に1校1コースまたは1科に限り出願することができる。 * 同一学科・コース内でなら、基本的に第2志望以下の志望順位を指定できる。 (2) 願書提出後、1回に限り志願の変更ができます。ただし定時制への変更はできない。										
検査内容	①学力検査(※全校でマークシート方式を導入) ②調査書 ③(小論文・作文・実技) ④(面接) * インカレッジスクール及びチャレンジスクールの選考では、学力検査を行わない。 (インカレッジは面接・調査書・小論文・実技、チャレンジは面接・志願理由書・作文。 詳しくは 各校の説明会で)										
選考	以下の総合得点による。 配点は各学校によって異なる。学力検査の傾斜配点を行う学校もある。 学力検査と調査書点の比重は、7:3に統一された。(全日制の第一次募集・分割前期募集) ① 調査書点 * ② 学力検査点 (一部高校で傾斜配点あり) ③ (面接・小論文・作文・実技点) * 調査書点について・・・下記の「合計」をもとにして300点に換算する <table border="1" data-bbox="331 1406 1417 1503"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>学力検査を実施する学科</th> <th>学力検査を実施しない学科</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全校</td> <td>国・社・数・理・英を1倍</td> <td>左以外の教科を2倍</td> <td>65点</td> </tr> </tbody> </table> * 例外もあるので注意			区分	学力検査を実施する学科	学力検査を実施しない学科	合計	全校	国・社・数・理・英を1倍	左以外の教科を2倍	65点
区分	学力検査を実施する学科	学力検査を実施しない学科	合計								
全校	国・社・数・理・英を1倍	左以外の教科を2倍	65点								

* 都立高校には分割後期募集・第二次募集がある。平成30年度の入試日程の案

出願	学力検査	発表
平成30年3月6日(火)	平成30年3月9日(金) 1日早まります。	平成30年3月15日(木)

《ワンポイント用語解説》

- ・分割前期・後期とは、あらかじめ募集を前期と後期に分けて実施するもので、その分割人数は各校によります。
- ・男女別定員制の緩和とは、男女別募集数の各9割を男女別に選考し、残りの1割を男女合同で選考します。
- ・特別選考→昨年度から廃止(募集人員の8割か9割を総合成績順に合格者を決め、残りの2割または1割を学校の特色に基づいた選考をしていました。)
- ・傾斜配点は、国際高校(英語:200点)の他、コース制高校など特色ある高校・学科・コースで行われます。

私立高校

私立高校の入試制度は、学校によってさまざまです。

推薦入試の制度、一般入試の入試教科・2次試験(面接や作文)の有無、願書を提出するときに必要な書類など、学力検査にも大きな特色があります。受験する上で、よく調べておく必要があるでしょう。

推薦入試

高校によって多様な種類があり、事前に制度を各自でよく調べておく必要があります。

下記の一定条件をもとに、進学希望者の推薦を出身中学校長に求め、調査書・推薦書・面接・作文・実技試験等を通して、その入学を認めるものです。

すべての高校が推薦入試を行っているわけではありません。(名称は各学校で異なります)それぞれのタイプに「推薦基準」があり、その基準を満たしている生徒が受験することができます。

推薦基準(例)

- ① 志望動機がはっきりしていること。
- ② 人物が優れていること。
- ③ 心身ともに健康であること。
- ④ 3年間の欠席や遅刻、早退が基準以下であること。
- ④ 学業成績が基準以上であること。(私立には明確な基準あり)

推薦 (第一志望・単願)	① 在籍している中学校校長の推薦があること。 ② 合格したら必ず入学すること。これを条件に学力検査を免除されて入学試験を受けることができる。 ③ 他校を受験することはできない。
その他	タイプによって異なる。自己推薦制度を設ける学校もある(学力面では基準に達しないが、他の活動の実績があれば入試が受けられる制度)。

* 併願優遇制度は、一般入試扱い。

一般入試

一般入試にもいろいろな制度があります。主なものは「第一志望優遇措置」と「第二志望優遇措置」、そして「一般入試」です。第一志望優遇措置や第二志望優遇措置は、すべての高校で実施しているわけではありません。

第一志望優遇措置	推薦基準には達しないが、その高校が第一志望であり、「合格したら必ず入学する」ことを条件に学力検査の入試得点に加点する制度(不合格になる場合も多い)。 一定の条件を設定している場合もある。
第二志望優遇措置 (併願優遇)	他校が第一志望で、「その第一志望校が不合格になった場合、必ず入学する」ことを条件に、入試得点に加点、優遇する制度。 第一志望を公立高校に限定する場合、他の私立高校も認める場合など、基準はその高校によって異なる。他校に手続きをするケースが多いことから、基準は推薦入試に比べて高めに設定していることが多い。 公立高校と併願する場合、その合格発表まで手続きを延長できる場合が多い。一部入学金等を納める場合もある。

一般入試	特に基準も優遇措置もない。 当日の入試得点・面接等で合否が決まる。調査書も参考にされる場合がある。
------	--

入試教科は3教科(国語・数学・英語)がほとんどですが、学校により5教科型や2教科型の入試もあります。作文や実技試験を実施している学校も数多く、それぞれの入試方法や過去の出題テーマなどを参考に対策を立てておく必要があります。

通常の筆記試験を、マークシート方式で行う高校があります。本番であわてないように、事前に模擬テストなどで、記入のしかたに慣れておきましょう。

私立高校の入試では、一般入試であっても多くの学校で面接があります。面接方法は、個人面接やグループ面接・親子面接など様々です。ただし、面接試験での多くの加点は期待できません。面接は入学させたくない生徒を見極めることがほとんどです。

入試基準について

推薦入試や一般入試の優遇制度を利用するには、その高校が示す基準(出願基準・選考基準)に達しているかどうか問題になります。基準は主に内申点、欠席日数等で示されます。ただし、一番大切な基準は「人物がしっかりしていること」です。それはスポーツ等の推薦でも同様です。

例1 「3年12月の成績が、9科30以上、または5科18以上で、欠席日数が各学年5日以内」

例2 「英検3(準2)級を持っていれば、内申点の1点とする」とか「生徒会役員、実行委員、委員会、部活動、ボランティア活動等を継続してやっていたら1点」など、学校内外の活動や実績を評価する学校もあります。

内申基準は、絶対評価導入後、変動が激しくなっています。以前より基準をアップするケースが多いです。昨年度の基準を参考にした上で、今年度の各校から発表される基準を確認しましょう。

8. 進学費用について

国立高校	公立(都立)高校	私立高校
◇受験料 9800円	◇受験料(全日制) 2200円	◇受験料 2~3万円
◇入学金 56400円	◇入学金(全日制) 5650円	◇入学金 15~40万円
◇年間授業料 115200円程度	◇年間授業料(全日制) 118800円	◇年間授業料 30~60万円
◇初年度納入金 30~40万円	◇初年度納入金 20~30万円	◇初年度納入金 60~120万円
(入学金・授業料・諸経費等合計)	(入学金・授業料・諸経費等合計)	東京都の私立高校平均は90万円 学校により大きな差があります。 (入学金・授業料・諸経費等合計)

* 昨年度入試の資料です。変更の可能性もあります。

* 平成26年度入学者から公立高等学校の授業料無償制度が廃止され、私立高等学校等と同様の就学支援金制度へ移行することとなりました。(収入に応じた支援制度)また、入学料の納入が経済的に困難な家庭については、入学料を免除(場合によっては2分の1減額)する制度があります。詳しいことの間合せ先は「都立学校教育部高等学校教育課経理係(03-5320-7862)まで。

また、いくつかの奨学金の制度もあります。進路便り等で紹介していきます。

9. 今後について

① 学校説明会について

現在もさまざまな学校から、学校説明会や体験入学のお知らせが届いています。学校説明会は、夏休み以降がピークですが、時期は年々早まり、回数も増えています。夏休み中に公開授業や体験入学等を実施する学校が増えています。早めに具体的な目標を定めて、意欲的に学習するためにも、ぜひ参加しましょう。

各校の日程については、進路だよりをはじめ、3学年廊下のパネル等で紹介していきます。また、教室内のパンフレット、書籍、ポスターなども参考にしてください。各学校のホームページなどでも情報を収集することもできます。東京都教育委員会や「スクールナビ(高校ホームページ検索)」、入試業者のホームページなどの情報も活用しましょう。

(1) 種類

① 学校説明会	一番一般的なもの。その学校でどんな勉強をどのくらいするのか(カリキュラムという)についての説明や、行事、施設案内、クラブ紹介などが主です。入試説明や卒業生の進路に関する話もあります。
① 体験入学	都立高校でも実施するところが増えてきました。学校説明のほかに、実際にその学校の生徒と同じ授業を体験します。 学校によっては、入試出願の条件に「体験入学に参加すること」としている学校もあります。
② 公開授業 体育祭・文化祭 等	学校説明会とは違いますが、中学生や一般の人にも公開されている場合があります。その学校の様子を自分の目で確かめ、特徴を知るチャンスです。 体育祭・文化祭は非公開の場合もあります。

(2) 対象・予約

① 対象	学校説明会は、生徒・保護者対象のものが普通です。平日に行われる保護者対象のものもあります。体験入学は生徒だけが対象のものが多いです。
② 予約	予約が必要な場合もあります。電話・FAX・メール・葉書など、予約方法もさまざまです。個人で申し込むものもあれば、必ず中学校を通じて申し込まなくてはならないものもあります。案内を確認しましょう。 予約不要なものでも、各学校に連絡してから参加する方が確実です(持ち物等)。

(3) 服装、心構えなど

① 服装	君たちの後ろには、来年度以降に受験する下級生たちがいます。くれぐれも失礼のないようにしましょう。 学校説明会、体験入学などはすべて中学校の標準服で参加しましょう。頭髮から爪にいたるまで、自分を鏡に映してからでかけましょう。
② 持ち物	上履き、筆記用具などが必要です。各校の案内で確認しましょう。
③ 心構え	◇目的はふたつ「その学校をよく知り、自分を見てもらう」のです。 ◇友達と遊び気分で誘い合っけたり、行き帰りに寄り道をしたりするようでは、参加資格はありません。交通手段や所要時間も前もってきちんと確認しておきましょう。 ◇受付で、中学校名・氏名などを書くことが多いです。このとき、服装などをすべてが「見られます」。 ◇はっきりきちんとあいさつをし、礼儀正しくしましょう。いろいろと教えてくださるはずですが、丁寧に礼を言いましょ。

② 今後の進路指導の流れ

月	行事等	進路関係	ポイント等
6月	運動会(3) 期末試験(21,22,23)	第1回進路説明会(9)	テストに向けた取り組み
7月	保護者会(8) 終業式(20)	第1回進路希望調査() 小論文対策講演会(14) 第1回進路面談(21~31) 六葉会 PTA 合同高校説明会() 稲城市 PTA 合同高校説明会 (若葉総合高等学校)	今までの総復習をしよう 高校見学・説明会に参加を 会場テストを受けてみよう 基礎コンに向けて学習を
8月	始業式(29) 基礎コン(30)		
9月	修学旅行(22~24)	第1回学力テスト(8)	テストに向けた取り組み
10月	中間試験(2,3) ふれあいの日(28)	第2回学力テスト(20) 第2回進路希望調査()	志望校を具体的にしよう
11月	学習発表会(1) 期末試験(21,22,24)	第2回進路説明会(2) 第3回学力テスト(17) 集団討論面接講演会(17) 第2回進路面談(6~13) 第3回進路希望調査()	受験のプランを練ろう テストに向けた取り組み
12月	終業式(25)	面接練習等開始 第3回(最終)進路面談(5~12) 調査書作成願提出() 私立調査書用紙提出 ※私立入試相談(教員 15~)	受験プラン最終決定 ※私立入試相談(教員 15) 必要書類を取り寄せよう 志望校の過去問に取り組もう
1月	始業式(9)	私立・都立推薦出願 私立・都立推薦入試	願書等の作成を早めに 早起きを心がけよう
2月	学年末試験(26,27,28)	私立・都立一般入試 手続き	手続き等を確実にしよう
3月	保護者会(5) 卒業式(20)	進学先へ書類提出等	4月に向けて準備をしよう

進路に関する情報等は、進路便り等で連絡していきますので、ご家庭でもご活用ください。3学年の学年スペースにも進路関係の掲示物を掲示しています。自発的に確認するようにお願いします。

また、ご不明な点やご質問等がございましたら、担任・学年教員までお気軽にご連絡ください。面談は上記の日程以外でも随時受け付けます。遠慮なくお申し出ください。